

平成 29 年度 「学校関係者評価」 年度末評価

三つの柱	項 目 (重点としたものに○をする)	学校が重点とした項目の目標達成状況及び学校の取り組みの適切さ	改善方策についての意見
I 授業づくり	① 授業力の向上	<p>1. 今年度から体育科の実践授業を通して、研究テーマ「自分から進んで取り組む子を育てる」の具現化を目指し、ブロック毎に研究授業、及び研究協議会を設定した。協議会では、横浜国大の梅澤教授の指導を受けながら、テーマに沿った研究ができたことで、子どもが関心をもって意欲的に授業に参加できた。新学習指導要領の重点となる「主体的で、対話的な深い学び」に即した実践ができたかなど、授業者だけでなく全体で共有できた。</p> <p>1. 学校長の参観授業を全教員が、年2回設定し、個別にフィードバックを受けることで指導・助言を活かし、自分の弱点や改善点を知ることができた。</p> <p>2. よりわかりやすい授業に向け、教室環境の整備を一層進めるとともに、書画カメラ(実物投影機)やプロジェクター等の ICT 機器が活用されている。</p>	<p>1. 今年度から、体育の実践を通して新学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」を先取りしつつ、市内外に発信できるような研究をスタートさせたが、授業の主体は児童であり、児童がお互いに自分の意思や考えを聞いたり、伝えたりすることにより、伝え合う方法や手段を追究してほしいと思う。また、今年度の学校評価アンケート(児童向け)の「自分の意見をもち、相手に伝わるように発表しているか」の項目では、4・5年生で「そう思う」と回答した児童が 30% 台、6年生になると 20% 台と大変評価が低い。児童が主体的に学ぶような、授業研究や指導法の工夫を行い、指導力が向上するように努力していくようにしていけるようきぼうする。</p> <p>2. 多くの学級で、パソコンやプロジェクター等 ICT 機器を活用した取り組みがなされていた。特別支援級では、タブレットを活用した活動も行っていった。今後は、全教員がこのような ICT を活用した実践を進めていけるようにしていくとよい。</p>
	② 多様な教育活動の充実		
II 集団づくり	① 認め合う集団づくりをめざして	<p>1. 校外学習や体験活動を多く設定し、子どもたちが仲間と共に、能動的に課題に働きかけることで、多様な解決方法や仲間との協働意識が高まった。</p>	<p>1. 5年生の林間学校や中学年のまちたんけん、また高学年の横浜、鎌倉めぐり等の校外活動では、児童が主体となって学習に参加している様子が報告された。どのような活動が子どもたちにとって有益だったか、学級担任はきちんと把握し、次年度の取り組みに活かしてほしいと思う。また、「主体的な」活動を進めるためにも、今後とも一層、仲間と協働し課題に対して積極的に解決を図ろうとする学習を多く取り入れてほしい。</p>

<p>Ⅲ 学校組織づくり</p>	<p>① 支援教育の推進</p>	<p>1. 課題をもつ児童に対して、2名のコーディネーターを中心に校内支援体制の充実を図りてきた。事例研究を組織的に進め、支援教育推進巡回指導員、スクールカウンセラーなどと連携を図り、個に応じた指導に努めてきた。今年度は、教育研究相談センターの指導主事や相談員、また本市子育て支援課等との情報共有も頻度を多く行ってきた。</p>	<p>1. 少人数指導や通級指導教室「やまびこ」における取り出し指導など、「個に応じた指導・支援」をきめ細やかにを行っているが、保護者にはその内容が伝わりにくい。したがってどんな教材を使って、どんな指導を行い、個に応じた指導で、どの程度効果が上がったのかを、具体的に、また丁寧に保護者に伝えていく必要がある。</p>
	<p>② 安全・安心に向けた取り組み</p>	<p>2. 「自分の命は自分で守る」ことを念頭に様々な危機を想定し、訓練を実施している。事前事後児童も丁寧に言い、子どもたちも避難のルールを守りつつ、自分たちでどのように行動すれば安全なのかを考えるようになってきている。</p>	<p>2 逗子病院前の交差点での交通事故の報告があったことについて、あの場所は交通量も多く大変危険な場所である。4月からは交通指導員が付かないということで大変不安である。児童の安全な登校が何よりも最優先であるため、粘り強く行政に働きかけていく必要があるのではないかと。挨拶に関しては、毎朝 PTA 会長と学校長が正門前に立たれているが、挨拶をしてくれる児童が以前より増えてきているようだ。今後も挨拶や言葉遣い等については、学校だけでなく、家庭や地域と連携し、繰り返し指導していく必要がある。</p>
	<p>③ 研修・研究の充実</p>	<p>3. 「自分から進んで取り組む子を育てる」をテーマに授業実践及び協議を行い、個々に研究を深めることができた。</p>	<p>3. 校内研究では、横浜国立大学の梅澤先生に指導を仰ぎ、市教委の委託を受けた研究を推進できたようだ。成果については、本市全体で共有できるような形でまとめていってほしい。また、通級指導教室「やまびこ」では、ADDS の竹内氏の講演を聴き、通級の児童の理解と具体的指導について学んだ。良い研究や研修は、全体で共有してこそ意味がある。今後も、活発に校内研究を推進していただき、その成果を児童の授業や指導に還元してほしい。</p>
	<p>④ 開かれた学校づくり</p>	<p>4. 学校支援地域本部を中心に「稲作」や「美化活動」など、地域の方の協力によってできる活動が本校には多くあり、教員も子どもたちも自然に地域の方と交流できている。今年度は、5年生の「藁細工づくり」や「田んぼ」の改修工事に、地域の方々の多大な協力を得ることができた。</p>	<p>4. 沼間小学校は、地域とのつながりが密接で、学校支援地域本部事業も大変活発に行われている。また、「学校だより」や「校長だより」、HPなどで学校からの発信も精力的に行っている。しかし、まだまだ全ての世帯に周知さ</p>

			れているとは言えない。自治会の活用を一層図ることや、掲示板やSNSの利用も検討したらどうか。
--	--	--	--